

2019年3月7日

立教大学国際学術研究交流制度
2018年度「招へい研究員」報告書

1. 招へい概要

受入 教員	所属・職	法学部・准教授
	氏名	安藤 裕介
受入学部・研究科・研究所		法学部
招へい 研究員	所属・職	Full Professor, European Studies Institute, University of Paris 8 所属機関所在国：フランス
	氏名	Arnaud Orain
招へい期間		2019年2月19日～2019年3月4日（14日間）
研究経費		440,520円

2. 滞在中の活動

来日および離日を含め、滞在中の活動を記入してください。全日程（毎日）記載する必要はありません。講演会やセミナーなどを開催した場合はタイトル、会場、参加者数等を記載してください。

活動内容記入例）〇〇について研究討議、共同研究、講演、講義、大学院生への研究指導等

*「本学との学術協定（学部間・研究所等間を含む）の締結または既存協定の維持・強化に資する活動」を行った場合は、該当する活動内容に※を付してください。

年月日	活動内容
2019年2月19日	来日、図書館ほか大学施設の案内、研究会の打ち合わせ
2月20日	研究会“A Failed French Revolution? A political and cultural history of the John Law's System (France, 1717-1720)” (立教大学池袋キャンパス 6号館 6206教室、参加者13名)
2月25日	研究会の打ち合わせ、日仏の18世紀研究の動向について意見交換
2月27日	研究会“Anti-Physiocracy: Another political economy and political science in France (1760s-1770s)” (立教大学池袋キャンパス 6号館 6206教室、参加者12名)
3月4日	帰国

3. 研究・交流状況および成果

上記に記載した活動について、具体的な研究・交流の内容および成果を、本学の学術研究、教育活動、国際交流の進展へ与える効果を含めて、記載してください。講演会やセミナーなどの参加者層（学生、大学院生、一般、教職員等）、会場の様子なども記載してください。

アルノー・オラン氏は高い研究能力を有するのみならず大変に教育熱心であり、また政治学・哲学・経済学が有機的かつ融合的に存在していた 18 世紀フランス啓蒙思想の研究者という点もあって、学部や専門分野の垣根を超えた豊かな学術交流が実現したといえる。以下、オラン氏の滞在中に開催された 2 つの研究会の内容を紹介する。

(1) 研究会 “A Failed French Revolution? A political and cultural history of the John Law's System (France, 1717-1720)”

本報告では、しばしば金融政策や信用創造の先駆けとして語られるジョン・ローの「システム」が経済理論の枠組みのみならず、もっと大きなパースペクティブをもった社会・政治改革であった—「革命」とさえ言っているいい射程を有していた—ことが明らかにされた。オラン氏の新たな解釈によれば、ローの「システム」は、所有権、徴税権、身分制、人々の欲望に劇的な変化をもたらす壮大な実験の試みであり、当時喧伝されていた新大陸のミシシッピ開発計画もこうした文脈から理解することができる。イコノロジーの手法も動員され、文化史と政治史、さらにはグローバルヒストリーも交錯する非常に豊かな内容であった。参加者は、学部生 2 名、大学院生 3 名、教員 8 名（学外を含む）で、1 時間以上にわたる熱心な質疑応答がおこなわれた。

(2) 研究会 “Anti-Physiocracy: Another political economy and political science in France (1760s-1770s)”

ここでは、18 世紀フランスの穀物取引論争の文脈においてフィジオクラット（ケネーの率いる重農主義者）がいかなる政治的位置を占めたか、どのような視点から彼らに批判が向けられたかが議論された。とくにフィジオクラットの掲げた「合法的専制」の概念や『経済表』の抽象性に対して批判を繰り広げた論者たち—マブリ、ランゲ、フォルボネ、ガリアーニー—が中心的に扱われた。日本ですでに知られている議論も少なくなかったが、社会風刺的な詩や歌の紹介もあり、フィジオクラットへの批判が民衆レベルでもかなり激しかったことが確認される報告であった。また、前回のローの「システム」をめぐる報告と同様に、文化史や政治史とも交錯する興味深い内容が随所に散りばめられていた。参加者は、大学院生 2 名、教員 10 名（学外を含む）で、今回も終了予定時刻を超過するほど熱心な質疑応答がおこなわれた。

（特記事項） 本学との学術協定（学部間・研究所等間を含む）の締結または既存協定の維持・強化に資する活動を行った場合は、下記にその内容を記載してください。